

# ボランティア



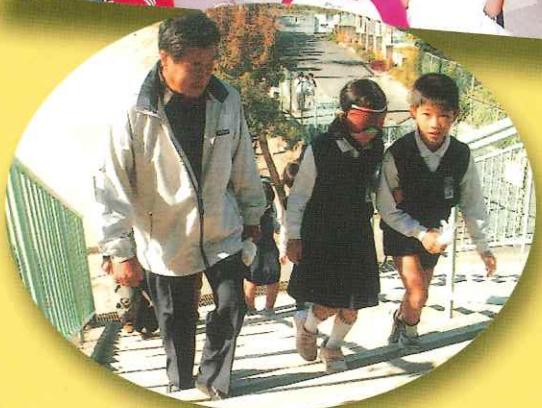
# osaka

Vol.36  
2004 Spring

発行 (福)大阪府社会福祉協議会  
大阪府ボランティア・  
市民活動センター

『特集』

地域と連携した総合的学習、  
ボランティア学習は今! :



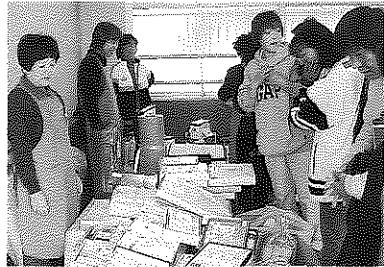
今号より発行部数および発送先を増やしました。

# Hello! ボランティアセンター

## 河南町社会福祉協議会 河南町ボランティアセンター

南河内郡河南町大字白木1387やまなみホール内  
TEL 0721-93-6222  
FAX 0721-93-6550

### 高齢者への食事サービスが充実



多くの来場者で賑わった  
ボランティアフェスティバル

葛城山の西麓に広がる河南町は古くから開けた地域で、多くの古墳・遺跡が残る、自然と歴史に恵まれた緑豊かな町です。人口は約17,000人とけつして多くはない

ものの、町民のボランティア活動はきわめて盛ん。ボランティア連絡会に所属する9グループの会員だけでも約170名。その他5つの小学校区ごとに地区福祉委員会が組織され、それぞれ30~50名の委員が活動しているといいますから、相当数の町民が日常的にボランティア活動に取り組んでいると言っていいでしょう。

その扇の要を担うのが、河南町ボランティアセンター。健康と福祉の総合施設「やまなみホール」と、旧幼稚園の跡地に開設された「ふれあいセンター」の2か所を拠点に多彩な活動を展開しています。

ボラ連所属の9グループのうち4グループが食事サービスに携わっていますが、高齢者への配食サービスがきわめて充実しているのが河南町の特長です。毎週の水曜日に4つのグループが分担して調理を行っていますが、その他、老人ホームや障害者作業所をサポートするグループ、環境関連のグループなどがあり、昨年10月には、こうしたボラ連所属グループの活動写真展を含めた「河南町ボランティアフェスティバル」を開催。模擬店、点訳体験、高齢者疑似体験、バザー、さらに給食グループが作った炊き込みご飯なども用意されたボラフェスは大好評だったと言います。

「今後はこうした活動をさらに充実させ、他の活動にも積極的に取り組んでいきたい」とコーディネーターの阪口加奈子さんとボラ連会長の近藤雅美さん。すでに移送サービスが始まっており、子育て支援の活動もスタートが予定されているとか。今後の展開が大いに期待されます。



左から河南社協の  
土井事務局長、阪口さん、  
ボラ連会長の近藤さん

## 四條畷市社会福祉協議会 四條畷市ボランティアセンター

四條畷市中野新町11-31市立福祉コミュニティセンター内  
TEL 072-878-1210  
FAX 072-878-6888

### 活発なボランティア連絡会

四條畷市では、15の社協ボランティア登録団体が日々、それぞれの分野で活動しています。視覚障害者のための点字文書や市の広報紙などの点訳を行っている「あゆみ」、若いお母さんの子育てを支援する「K S V」、高齢者介護に取り組んでいる「ほほえみ」、移送サービスの「すまいる」、要約筆記の「虹」、自助具製作の「セルフ」、精神保健福祉の「ポコポコ」、その他にも朗読、給食サービス、障害者支援、おもちゃづくり…など、多彩な分野で活発な活動が展開されています。

ボランティアセンターがそれらをパックアップしているわけですが、コーディネーターの塙正義さんと竹内康さんの二人が、若い力を存分に發揮。「フレッシュな二人には大いに期待しているんです」と社協事務局次長の平野忠克さんもエールを送ります。

さて、四條畷市ボランティアセンターの仕事は、およそ以下の7つです。ニーズとシーズをつなぐ「相談・あっせん」、ボランティアに関する「調査・研究」、活動をサポートする「援助」、情報の収集と提供の「広報・啓発」、講座などを開催する「研修・育成」、地区福祉委員会など関係機関との「連絡・調整」、そして「ボランティア保険の取り扱い」。これらは他のボランティアセンターと基本的には同様ですが、四條畷の特徴は、広報・啓発活動や講座の開催などを、ボランティア連絡会（北川シズ子会長）と一緒にやって取り組んでいる点。連絡会の会合は毎月開かれ、ここで合同で取り組む行事などの打ち合わせが行われます。これまで赤い羽根共同募金の街頭募金活動、福祉施設のイベントサポート、町の美化運動「クリーン作戦」などに取り組んできましたが、「ボラ連と一緒に取り組むプログラム」は、今後ますます増えていきそうです。



左から平野次長、竹内さん、塙さん



ボラ連による町の美化運動

特

集

# 地域と連携した 総合的学習、 ボランティア学習は今…

小・中学校から、いまでは高校でも始まつた「総合的学習の時間」。これは言つまでもなく、既存の教科とは別に、児童や生徒が「生きる力」を身に付け、かつ市民として地域社会と積極的な関わりを持ち、福祉マインドやボランティアマインドを育むことを目的として取り組まれている新しい教育プログラムです。そして多くの場合、地域社会の人たちが「ゲストティーチャー」として学校と連携し、このプログラムを積極的にサポートしています。

そこで今回は、先に行われた福祉教育研修会を誌上再録し、いくつかの取り組みを紹介しながら、地域と連携した児童・生徒の総合的学習、ボランティア学習について考えてみたいと思います。



# 21世紀の福祉教育・ボランティア学習の展望

日本社会事業大学教授・大橋謙策さん

3月6日、大阪府社会福祉協議会の主催で「福祉教育研修会」が開催されました。当団は日本社会事業大学教授・大橋謙策さんの講演と、吹田市立西山田小学校・松原市立第三中学校からの事例報告がありました。が、ここではこの催しを誌上再録させていただきました。

教育も福祉もボランティアも、「何々してあげたの?」「どう考え方の転換を

21世紀は「ネットワーキング型のヨコ社会」だと私は考えていました。一人一人、「どう生きるの?」「どう思うの?」ということが重要になり、社会福祉の分野でも、介護保険や障害者支援制度においてもサービスを「選択」することになります。今まで行政から提供されるものを待つていればよかつたのですが、これからは、「自分で選びなさい」と言われるのですから、大きな社会観、人間観、教育観の転換だといえるでしょう。

2000年までの社会福祉法では、サービスを提供する立場の人間が「何々してあげる」と考えていましたが、あいだみつをさんの詩の中

に「何々してあげたのに。のにが出ると思痴になる」というのが出ます。でも、「何々してあげたのに、自分の言うとおりにならない」ということになりますがちで、上から「してあげる」という意識が強かったのです。

ところが2000年以降は、福祉サービスを利用している方々の人権を尊重し、その人たちのサービスの利益を守るというように切り替えて、「個人の尊厳の保持を旨とし、それを有する自立した能力に応じた生活が営めるよう支援する」と、社会福祉法第3条で規定されるようになりました。これは本当に180度の転換です。

福祉」というと、すごく特別なことのように考えがちですが、大事なのは「生活」なんだという点です。生活にどういう困難があるのか、課題があるのかということを考えることがとても

大切で、そういう視点が重要視されるようになりました。それで、社会福祉法の第4条では、福祉サービスを利用する人を地域社会の一員として受け入れ、その人たちが社会、経済、文化、その他あらゆる活動に参加できるようにしていきましょう」と唱えています。すべての人たちが仲間として生活しながら、なんらかの支援を必要とする方々に、ちょっと配慮しましょう」という考え方方が、教育上も社会福祉の上でも必要だという時代になりました。さらに、市民活動とボランティア活動の関係もきちんと考えないとけません。逆説的な言い方をすると、ボランティア活動をなくすためにボランティアをするのだと思います。あらゆる市民が地域を愛し、隣人を愛し、地域で障害をもつた人に、「マイアイヘルプユー?」(お手伝いすることができますか?)と言えば、あえて、ボランティアなんて言わなくていいはずです。

自分地域における日常生活がどこかに吹っ飛んでしまっているのに、今日は楽しかったか」なんて聞い

なっています。日常の生活がまったくひどい市民生活をしていたのでは、どうにもならないということです。

子どもや青年の発達をもう一度豊かにしていくためにも、福祉教育がいまこそ必要な時期

昔は「大人(親)の背中を見て子は育つ」と言つたけれども、いまは大人は鞄を持って、背広を着て出て行つて仕事をしているので、何の仕事をしているのかは見えません。子どもたちにとっては、地域の大人が全然わからぬわけです。自分の親と学校の先生しか知らないし、その両方が「勉強しろ」とか、「あれやつちやいけない」と怒つぱかり。「お前はどうしているんだ、今日は楽しかったか」なんて聞い





大橋謙策さん

1943年、東京生まれ。東京大学院教育学研究科博士課程修了。現在、日本社会福祉学会会長、日本地域福祉学会会長、日本福祉教育・ボランティア学習学会副会長など。主な研究業績は、「地域福祉の展開と福祉教育」(全国社会福祉協議会発行)、「福祉教育の理論と展望」(光生館)など多数。

子どもには職業観も労働觀も身につかず、「閉ざされた生活」が一般化してしまったといえるでしょう。

こういうことを1970年代に気がついたので、今学校教育も含めて、福祉教育をやらないと子どもは育たないと考えました。日常の中でお年寄りや障害をもつた人たちと触れてみれば、自分がどういう位置にあるかということを、どうしても考えるを得ません。子どもや青年の発達をもう一度豊かにしていくためにも、福祉教育を考える時期に来ていると思います。

## 地域の大人が

### 学校教育に関わることで、 子どもたちも成長する

いま、学校教育を再生することが求められていますが、そのひとつとして、たとえば部活動については、地域で担いえば一番いいと思います。地域で合唱部をつくり、成人の合唱部もあれば、ジュニアの合唱部もあって、大人が子どもを指導する。こういう学校教育と地域教育の結びつきを考える時期にき

たのではないでしょうか。

学校の先生は勉強のことで怒るかもしれないが、地域のおじさんであれば、喜んでくれる中で、一番育つのが子どもや青年です。

い子だな」と励ましてくれるかもしれません。複数の大人が子どもを多角的に評価するので、こっちで怒られてもこそ生きがいを見出さかもしれません。

地域教育によって多角的な評価の機会を与えてあげたいと考えています。また、親や先生ではない第三者と触れ合うことも、子どもの成長につながります。青森県の黒石市では、夏休みに中学生・高校生を地域の一人暮らしのお年寄りの家に派遣したことがあります。みんな「かわいそうだから」とけつこう気負って行つたのですが、生徒たちには生活能力がないので、掃除のしかたからご飯の炊き方まで、逆にいろいろなことを教えてもらつてきました。親に「掃除をしろ」と言われるときも、と躊躇つ面をする子どもが、実際に素直に聞きますから、第三者と接するというはとても大事なことです。

お年寄りの家に派遣したことがありました。みんな「かわいそうだから」とけつこう気負って行つたのですが、生徒たちには生活能力がないので、掃除のしかたからご飯の炊き方まで、逆にいろいろなことを教えてもらつてきました。親に「掃除をしろ」と言われるときも、と躊躇つ面をする子どもが、実際に素直に聞きますから、第三者と接するとい

どんなに子どもや青年を勇気づけるかわかりません。サービスを受けた人が喜んでくれる中で、一番育つのが子どもや青年です。

こんな例もありました。甲府の中学では27クラス全部に、障害をもつた人に来てもらったことがあります。学外の審査員の方がそれを全部読んだ、「一番面白い」と評価してくれた作文を書いた生徒の名前を見て、校長はぎょっとしてしまいました。番長が素晴らしいというので、校長先生はその生徒を呼ぶと、彼は頭をテカテカにして、ラップズボンをはいて、また怒られるものと思って校長室に入つて來た。ところが、校長先生に「君の作文が一番すばらしいと褒めてくれたのでは、明日の朝礼のときに皆の前で読みなさい」と言われて、彼は驚いて帰つた。親に「掃除をしろ」と言われるときも直り、皆の前で作文を読んだのです。その後、校長先生がどうしたんだと聞いたら、「小学校・中学校を通じて初めて僕は先生に褒められました。こんな嬉しいことはありません」と答えたといいます。

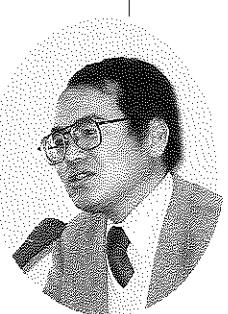
実際、とても荒れている学校が福祉教育をしていく中で変わつていきました。問題行動を起こしている若者は本当は寂しいので、自分を必要としない「お前の可能性を信じているぞ」という言葉を求めているのです。若者が自分の人生を無駄に使わないで、可能性をもつて生きていくこと。それを信頼していくためにも、「自分という人間は何なのか、自分はどういう人間にならなくちゃいけないのか」ということを考える機会を、福祉教育によつて与えるのは大人や教育者の責任だと、私はずっと考えてきました。福祉教育は子どもや青年の発達上、そして今の教育を再生させる上でも、欠かせない重要な要素をもつていてると思います。

### 福祉教育は子どもや青年の発達上 や、教育を再生させる上でも、欠 かせない要素

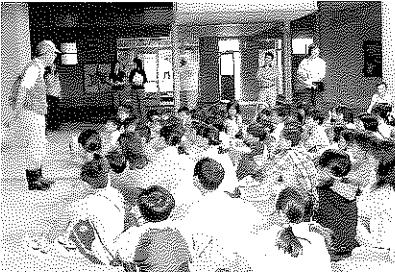
障害をもつた人や高齢者と付き合つと、「あなたが来ててくれて楽しいよ」と言つてくれるのですが、その一言が

# 地域のNPOの協力を得て、子どもたちに 環境教育を実施

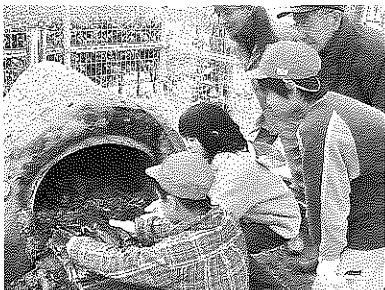
吹田市立西山田小学校教諭・下村研司さん



NPOの指導を受けながら自然観察



ゲストティーチャーの話を熱心に聞く子どもたち



「うまく焼けたかな？」と、校内に作られたかまから竹炭を取りだす子どもたち

**地域の人と交流することは、子どもたちの学習意欲を高め、コミュニケーション能力の向上につながる**

本校では、数年前から『西山田ヒメボタルの会』や『西山田緑を守る会』の協力を得て、地域に生息するヒメボタルについての学習や竹炭づくりの活動を行ってきました。環境教育の実践でも成果が大きいと思います。私がヒメボタルについていくら話をしても、子どもたちにとっては国語や理科の授業を受けるのと同じで、「はい、そうですか、わかりました」という感じで新

にあたっては、学校と地域の人たちが中心になって「推進協議会」を立ち上げ、その中で年間計画なり、進め方を事務局で決め、活動ごとにワーキンググループを設置して取り組む形をとっています。

子どもたちにとって、地域の方や専門的な知識をもった方と交流すること

は、学習意欲を高めるとともに、コミュニケーション能力の向上という意味でも成果が大きいと思います。私がヒメボタルについていくら話をしても、

子どもたちにとっては国語や理科の授業を受けるのと同じで、「はい、そうですか、わかりました」という感じで新鮮味がありません。たとえまったく同じ内容であっても、地域の方が、「私はこんなことをしてほしい」と話さされると、子どもたちの目の輝きが違ってくるのです。また、子どもたちは緊張して話を聞くといった、あらためた場が少なく、きちんとした対応をしなければいけないので、こういう経験も大事だと思います。

**学校と地域をつなぐ  
コーディネーター役が不可欠**

「地域に開かれた学校」とは言うものの、教師はPTAの意見を聞くことはあっても、実際にはなかなか地域の人の話を聞く機会がありません。一方、地域の方も、いろいろな思いはあるけれど、学校のどこに、何を言つていけばいいのかわからない、それを伝える場がないというのが実情です。

そこで「NPOと学校の連携について」というテーマで、教職員と環境教育に参加してくださった3団体のNPOによる学習会を行い、学校に対してどういう期待をしているかを本音で語



ヒメボタルの成長を紙芝居にして発表

つていただきました。普段はなかなか言いにくくことも互いに話をすることがでわかり合えたのがよかったです。また、教職員にとつても、今まで学校教育の中では気づかなかつた地域の方の気持ちや思いにふれたことは、今後の教育のなかに生かされるものだと思います。

ゲストティーチャーとして来ていただく方は、もちろん教育の専門家でない場合が多いし、また学校とは微妙に思ひが違っているときもあります。そのときに、お互いの意図を確かめ、その活動でどんなことをしたいのかを明確にする上でも、事前の打ち合わせは欠かすことができません。「学校としてこういうことをしますよ」、「窓口は誰」というように地域との連携を一元化し、学年間の調整を行うコーディネーター役の存在が、これからますます必要になります。個人的なつながりではなく、学校として地域の方とどう連携していくのかを考えておくと、それが今後、ますます重要なつながりだと思います。

# 市内約100ヶ所の事業所で職場体験学習

松原市立松原第三中学校教頭・中村勝成さん

働くことの意味を考え、将来を見つめるチャンスに

大阪府内のすべての中学校区には、

「地域教育協議会」が設置され、本校でもこの協力を得ながらさまざまな活動を行っています。そのひとつが、

「三中ハローワーク（進路総合学習としての職場体験学習）」です。将来のことを自分で考えられない生徒にとって、自分自身や親の仕事、そして将来を見つめる上で、大きな転機となっています。

「実際の職場で、働くこと」を体験したい」「働く」ということは、どんな苦労や喜びがあるの?」という生徒の気持ちを大切にし、「子どもが自分自身に夢を持ち、地域のネットワークづくりの一員となる」ことへの第一歩の取り組みとして位置づけています。

まず、職場事前訪問や2日間にわたりの職場体験学習の前に、仕事の厳しさやその技のすばらしさを学ぶ「プロの技に学ぶ」や、職種ごとに分かれて事前学習を行う「コース別学習」を実施。



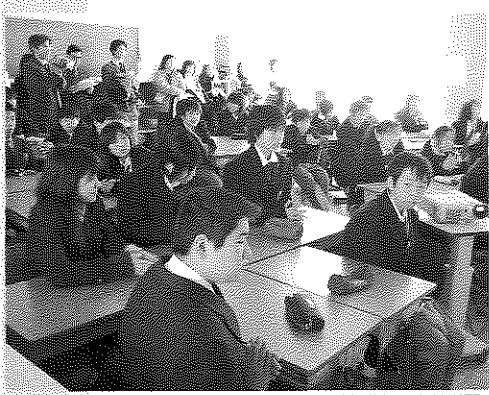
スーパーと保育所での職場体験

プロの整備士さんや植木職人、消防士、保育士にも話を聞きました。また、職場での話し方や電話の対応、身だしなみなどを身につける「スキル学習」を取り入れて、地域教育協議会の役員の方々や保護者を講師に招き、生徒が事前学習で学んだことを実際に人前で行う「演習」の時間を設定しました。

いまの子どもはきちんと話したり、返事ができない子がいるのですが、72歳の女性の協議会会长さんは、そういう子どもを前にして、しゃきしゃきと話をされ、「あんた、ちゃんとしゃべりなさい」とか、「礼はきちんと『気をつけ』をして言いなさい」とおっしゃるんですね。すると子どもらは、教師が言つよりもずっとよく聞くのです。

体験学習を通して、生徒を中心とした教育「ミニユーティの輪が地域に広がった

職場体験学習では105ヶ所の事業所に協力をいただきましたが、生徒たちは体験学習に行ってみて、初めてわかることが多いかったです。茶髪の



事業所と教室を結んだ「テレビ会議」で事前学習



地域のお年寄りを学校に招いて交流会

びをつかめただけでなく、人の出会い、ふれあいの大切さを実感することができる、また、自分たちの生活を支えている親の仕事や思いを振り返るきっかけともなりました。

短い期間ですが、将来の展望と働く意味を考えると同時に、学習を通して生徒を中心とした教育「ミニユーティの輪が地域に広がりました。

学校における体験活動の効果的な推進には、学校・家庭・地域が連携・協働しながら、地域教育「ミニユーティの輪」を広げ、地域で子どもたちが育つていいくネットワークづくりが大切な要素です。今後はさらに地域との連携・協働を強化しながら体験活動を推進し、生徒一人ひとりの笑顔が見られる、開かれた学校づくりをめざしていきたいと思います。



全学年による校区清掃ボランティア活動

# 『まづくさつかけを大切に』

擬似体験インストラクターグループ・うらしまさん

アイマスクをつけて視覚障害者の不便さを体験



活動が始まって丸3年。「楽しく学んでもらう中から、ハンディを持った人たちのことを少しでも理解してもらえば」とメンバーの皆さん。

多くの場合、今のこどもたちは、生活半径の中に障害者がいることに気づくことなく育っています。また核家族化のなかで、お年寄りと生活を共にすることも以前と比べれば少なくなっています。

「ですから、優しくする気持ちはあっても、そうした人に町で会つても、どうすればいいかがわからないようです。でも、その不自由さ自分で経験することで、地域には、いろんな人がいて、その人たちの生きにくさ…」もわかってきます。ですから、そんな“気づき”の『さつかけづくり』が私たちの合い言葉です」と皆さん。そして「要介護者は何もできないのではないか、道具や生活の工夫、周囲の人々が暖かく見守ることで、さまざまな可能性が広がります。そのことに気づいたときの子どもたちの驚いた表情と笑顔が私たちの活動のエネルギーとなるんです」と口を揃えます。

寝屋川市社会福祉協議会ボランティアセンターの登録団体である「擬似体験インストラクターグループうらしまさん」（竹下波津子代表）。高齢者擬似体験装具や車椅子、アイマスクなどを使い、地域の小中学校をはじめ企業などの勉強会や研修会で、講義と擬似体験の指導・アドバイスを行っています。活動の7割近くは学校からの福祉体験学習への協力依頼にもとづくもので、児童や生徒を対象とした活動です。市内に26ある小学校、12の中学校のうち「すでに過半数の学校には出向いてきました」そうです。

擬似体験は、学校の体育館で行うこともあれば、ときには学校から外に出

ていく場合もあります。そんなときは、子どもたちは一人一組になって「町のバリアを点検」することになります。「車椅子だと、少しの段差でも大変」「目が不自由だと、点字ブロックをふさぐ自転車がとても危険」「ちょっとした支えがいかに助かるか」などを、文字通り体験していきます。

そして、そんな擬似体験をしてみて初めて、「駅で切符を買うのも、お年寄りには大変なことがよくわかった」「ちょっととした声かけの大切さが理解できた」と話してくれると言います。「外に出る場合は、信号などもあるので安全確保のために、二人一組の子どもに一人の大人が付きます。ですから大人数のスタッフが必要になる。通

常、1プログラムは2時間ですが、事前の下見と打ち合わせ、装具の搬入・搬出などがあるので、1回のプログラムで最低4回は足を運びます。ですからスタッフは常に不足気味。みんなで嬉しい悲鳴を上げているんです」。「それだけに、私たちの活動が校区福祉委員会などを含めて、もっともっと広がつていけば…」とも皆さん。

多くのメンバーは他のボランティア団体にも重複して入っているそうです。が「うらしまさんは新しいグループだけに、みんなで自由に意見を出し合ひながら和気あいあい、楽しくやっていますよ」とは全員の声。

学校現場の総合学習を地域が支える、一つの事例です。



「うらしまさん」の活動の大半は、学校現場での児童や生徒を対象としたものです



「地域のおばさん」が学校に来ることで、子どもたちの「地域社会との交流」も図れます



# 子どもは感動したら、それがすぐ声になる

和泉ボランティア市民プラザ・ボランティアアドバイザーの皆さん



黒島小学校での高齢者擬似体験

泉州高速鉄道「和泉中央駅」の駅前にある和泉ボランティア市民プラザ「アイ・あいロビー」。和泉市のボランティア・市民活動の一大拠点ですが、ロケーションに恵まれていることもあります。訪れる市民は少なくありません。そして、ここでの運営をボランティアで担っているのが、22名のボランティアアドバイザーの皆さん。シーズと二一

ズをつなぐコーディネーターをはじめ、さまざまな活動に取り組んでいます。

その中のひとつが、学校現場からの

リクエストに応えて行っている「出前講座」。ゲストティーチャーとして複数で学校に赴き、高齢者擬似体験講座や車いす講座、アイマスク講座、手話講座、点訳講座などを聞き、学校の福祉教育や総合的学習をバックアップしています。

「子どもたちは何をやっても初めて

ですから、みんな興味しんしん、目をキラキラ輝かせて聞いてくれます。そしてやつてみて初めて、当事者の大変さがわかるようです。高齢者擬似体験では、視野狭窄や白内障を体感するゴーグルを付けてもらうんですが、それ

を付けてはじめて、お年寄りの歩きにくさや、黄色い色が見えにくいことを子どもは体験します。講座のあと感想文を書いてくれますが、装具を身につけてみて「おばあちゃんの大変さがよくわかった」といった感想文を書いてくれる。それがまた、私たちの励みになりますよ」と東節子さんと山村武子さん。

寛千鶴子さんは手話サークル「ひまわり」の代表も務めていますが、「もちろん中には泣ける子もいる。でも

『体の不自由な人にとってはヘルパーさんとの信頼関係が何よりも大切なよ。だからじめにしなくちゃ』といふと、素直に取り組んでくれます。こちらがきちんと説明すれば、みんなわかつてくれる。なかには「ヘルパーになりたいので今から体を鍛えておきます!」なんていう子も」と語ります。

「とにかく、子どもは感動したら、

それがすぐに声になる。反応がストレート。それだけに、こちらも鍛えられるんです」とは福田哲郎さん。障害者スポーツの指導員の資格を持つていま

すが、「やつているうちに『今度は僕が先生役になる!』と講師を買って出る子もいたりして、いつも楽しくやつてている。気が付くと、子どもと一緒に楽しんでいる自分がいる」と笑って語ります。

こうした「出前講座」の効果なのか、講座のあと「子どもたちが駅前の自動販売機に、ジュースの種類と値段がわかるように点字をつけた」事例があつたとか。

そんな「目に見える成果」もあるた

多く「今後はもっと多くの学校を開拓していくかなくては(笑)」と皆さん。これもまた、学校を地域が支える事例の一つです。



いぶき野小学校での盲導犬学習



左から寛さん、東さん、福田さん、山村さん



# 学生のための自主活動・ボランティアリーダー養成研修会

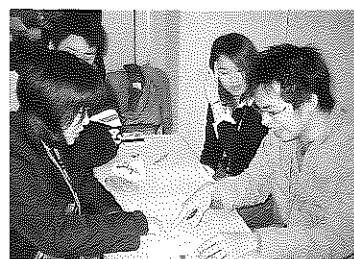
## 門真市社会福祉協議会



巧みに講演する  
南海福祉専門学校の  
水流(つる)寛二さん



市内から23名の中・高生が参加した研修会



当日はグループに分れて交流を  
深めました

去る3月26日、門真市の保健福祉センターで「学生のための自主活動・ボランティアリーダー養成研修会」が開かれました。

参加したのは門真市内の高校生と中学生。自主活動のためのスキルアップやボランティア意識の啓発、組織運営の手法を身につけてもらうことを目的としたもので、催しの準備段階から当日の進行も高校生が中心になって担いました。

「もともとは、中・高生を対象にし

たボランティア入門講座がきっかけです。思ったほど参加者が多くなく、何かの仕掛けをしなければ…と考えていたんです。昔は市内の高校が交流する3校交流会というのがあつたんですが、その復活も視野に入れながら、門真市の中・高生が交流する場づくりとして企画しました。ですから社協はできるだけ裏方に回るようにして、高校生を中心に企画から運営まで担つてもらいうようにしました」と門真市社協ボランティアセンターの藤江冬人さん。市内の門真西高校、なみはや高校の生徒会役員らが中心になつて準備会議を4回開き、当日の交流プログラムでは彼らが司会を担当。当日は高校生の母校から中学生の参加もあり、楽しい催しは大いに盛り上りました。

午前のプログラムは、南海福祉専門学校の専任講師、水流 寛二さんによるアイスブレークリングを兼ねた講演。「ぐす」といった意味ですが、ボランティア活動に限らず、さまざまな集団活動に際してはしばしば用いられる手法です。水流先生の巧みなリードで楽しいうクイズやゲームをするうちに、参加者の緊張もとけて、会場はたちまち和やかな雰囲気に。後半はグループに別れ、互いに自己紹介をしながら参加者は楽しく交流しました。

午後からは、門真西高校の佐藤功先生が原作を書いたアニメ「あした・きらりん」を観賞。これは、人権をテーマにした脚本を全国から募った2000年の「ヒューマニティ大阪市長賞」で再優秀賞を受賞したものをアニメ化したものですが、ストーリーは門真西高校での実話に基づいています。「クラスのみんなで取り組むこと」の素晴らしさをテーマにしたもので、声優はオーディションで選ばれた素人の高校生たち。その後は、高校生の司会で楽しいゲームに取り組み、参加者は交流

を深めました。



門真市には、門真西高校の「かどまくる」(門真市車椅子MAPつくり隊)や「れんこん発掘隊」など、高校生を中心としたボランティア団体の活動が活発ですが、「こうした取り組みをさらに活発化させていくために、学校間の交流が大切。今日の催しをきっかけに、こうした交流が進み、一人でも多くの中・高生がボランティアをはじめとした地域活動に取り組んでくれれば」と佐藤教諭。

社協は裏方としてサポートしながら、主役はあくまで中・高生が担つた今回のようないふしが、今後、他の市町村にも波及していくことを期待したいものです。



左から、準備会議で話し合う門真西高校の魚谷純平さん、なみはや高校の乾友香梨さん、江戸美鈴さん。

# Vクリッピング ボード



ボランティアをやってみたい!  
そんなあなたに耳寄りな情報満載



## ご利用にあたって

ボランティア活動へ参加を希望される方は、事前に各団体にお問い合わせの上、条件等を話し合ってから、参加してください。本ホームページは大阪ボランティア情報ネットワーク運営委員会により運営されています。

### ホームページアドレス

<http://www.osakafusyakyo.or.jp/ovn/>

(平成16年4月から新しくなっております。)



4

## キャンプやレクリエーション イベントのスタッフ募集

**活動内容**: 子どもたちと一緒に新しい自分を発見してみませんか! 月1回、主に小学生を対象としたキャンプやイベントを企画、運営している団体です。また子ども会や障害者団体からの依頼があれば、ハイキング、クリスマス会、お楽しみ会などへの協力活動も行っています。年間を通じてでも、単発でもOKです。年間活動の方は会費として1,500円、単発の方は保険代や通信連絡費として500円程度が必要。

**活動日**: 月1~3回程度

**場所**: 高槻市内および周辺

**対象**: 高校生~社会人向け 初心者 グループ参加歓迎

**問合せ先**: 総合レクリエーション工房チャイルドパート

TEL(072)661-1810

E-MAIL: [mla71481@nifty.com](mailto:mla71481@nifty.com)

URL: <http://homepage3.nifty.com/ASOBI/>

1

## キャンプリーダー募集!! 「今しかできないことがある!」

**活動内容**: 曽かな自然につつまれたキャンプ場で、子どもたちとともに生活し、野外料理やキャンプファイアなどの「キャンプ指導」に青春をかける大学生の皆さんを募集します!

**活動日**: 3~6月/キャンプに向けて研修や打ち合わせ 7~8月/キャンプ場で子ども達とともに生活し「キャンプ指導」 9~12月/市主催の行事や市内こども会行事のお手伝い (事前研修あり)

**場所**: 7~8月は、茨木市青少年野外活動センターでキャンプ指導。その他の期間は市立上中条青少年センターで活動。

**費用**: 食事補助あり

**対象**: 4年制大学の1・2年生男子

**問合せ先**: 茨木市教育委員会 生涯学習部 青少年課 ☎ 567-0881

茨木市上中条2-11-22 市立上中条青少年センター内

TEL(072)622-5180 FAX(072)622-9858

E-MAIL: [seisyonen@city.ibaraki.osaka.jp](mailto:seisyonen@city.ibaraki.osaka.jp)

URL: <http://www.city.ibaraki.osaka.jp/office/seisyonen/>

2

## あなたの特技を生かして、 ともに学び教えあう場

**活動内容**: パソコン、絵画、コーラス、ヨガ、手芸、朗読、演劇、落語、英会話、囲碁、将棋、麻雀、講演、癒しの時空間、などなど。

**活動日**: 月曜日 木曜日 金曜日

**費用**: 昼食提供 (初回研修日の昼食代は負担してください)

**対象**: どなたでも

**問合せ先**: ☎ 564-0073 大阪府吹田市山手町3丁目23番26号

街かどデイハウス「生きがい俱楽部」

TEL(06)6337-8112 FAX(06)6337-7020

E-MAIL: [knightcs@isis.ocn.ne.jp](mailto:knightcs@isis.ocn.ne.jp)

URL: <http://www2.ocn.ne.jp/~knightcs/>

3

## 第11回 共生・共走リレーマラソン大会

**活動内容**: 毎年5月末日曜日に開催して、今年で11回を迎えます。障害のある人とのない人が「共に生きる」を目指して続けてきました。今年は鶴見の花博記念公園鶴見緑地で開催。参加してみたいという方、チーム・フリーマーケット・出店(福祉作業所に限る)、ボランティア、スタッフ介助等々。

**活動日**: 5月29日~5月31日

**対象**: どなたでも

**費用**: 交通費支給、食事補助あり

**参加条件**: 事前研修あり 全体説明会あり

**問合せ先**: 共生・共走マラソン実行委員会

大阪市平野区加美北8-13-16 大阪障害者労働センター・マツ

サク気付共生・共走マラソン実行委員会

E-MAIL: [matsusaku-group@rio.odn.ne.jp](mailto:matsusaku-group@rio.odn.ne.jp)

URL: <http://kouei.info/taikai>

6

## 知的障害を持つ方と スポーツを楽しみませんか?

**活動内容**: 住之江木の実園といわき生野学園、同法人2施設のスポーツ交流会を行います。簡単なスポーツでの競技中の介助や裏方のお手伝いをしていただける方を募集しています。当日は動きやすい服装をご参加ください。

**日 時**: 平成16年6月5日(土) 9~15時ごろ

**場 所**: 大阪市立住之江養護学校  
(大阪市営地下鉄四つ橋線北加賀屋徒歩5分)

**費 用**: 食事補助あり

**対 象**: 高校生~社会人向け 初心者歓迎 グループでの参加歓迎

**問合せ先**: 住之江木の実園 ☎ 559-0013 大阪市住之江区御崎3-2-2  
TEL(06)6685-6611 FAX(06)6685-6622  
E-MAIL: [konomien@mcb.biglobe.ne.jp](mailto:konomien@mcb.biglobe.ne.jp)  
URL: <http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~konomien/>

今号は勤労者が関わっているボランティアについてレポートしていただきました。



## 企業もボランティアで 地域に貢献

箕面市

ボランティアグループ「大山観光グループ」は、平成8年に発足しました。地域と調和のとれた企業づくりを目指すとともに、企業活動を通じて社会参加を行うことを目的として活動しています。

登録社員は約100名。仕事が、休みが不定期なので、その合間をぬつての活動ですが、箕面市内の障害児・者のバザーや夏祭り、療育キャンプ等での介助、保育、お手伝いに参加しています。また、箕面市社協ボランティアグループ連絡会へは役員として参加しており、ボランティアフェスティバルでは物品寄付や連絡会のベースを積極的に担当するなど、企業ボランティアとしての特徴を活かした活動をしています。

さて、実際に参加した社員からは、「障害を持った方とともに天保山のあらゆるところに出向き、映画鑑賞、ショッピングなどを楽しんで頂くためのお手伝いを行いました。個人的には、車椅子の扱い方はかなりなれただで、食事介助をうまくできるように、と思つていましたが、実際はなかなか難しかつたです。次回、参加する際にはぜひ食事介助をマスターしたいと思いま

す」との声。

毎年4月に入社する新入社員も、学生の頃からボランティア活動に興味を持っていますので、若い力でどんどん地域でのボランティア活動に参加していきたいと思つております。



## 勤労者が集うボランティア サークル「きんたろう」

守口市



毎週、水曜日の午後6時頃、仕事を終えた人たちが守口市社協のボランティアルームに次々に集まつてくる……この光景も20年目になります。

知的障害者の余暇活動を応援することを目的に、市内で働く勤労者が数人集まり、障害のあるなしに関係なく一緒に何かできれば……との思いから活動が始まりました。

現在、メンバーは98名。守口市在住

者だけでなく、広く大阪府内から様々な仕事をしている人が集まっています（会社員、金型の職人さん、ゴミ焼却所の技術屋さん、喫茶店経営者と従業員、ケアマネ、保育士、医者、看護士、ヘルパー、作業療法士、施設指導員、大道芸人、ストリートミュージシャン等々）。

日々、仕事をしていると色々なスタッフに役割が振り分けられ、勤務先から借りたトラックなどに食料や機材を積み込み、運搬し、食事作り、プログラムの進行、24時間交替で見守り……。初めて参加する勤労者や学生たちにも楽しんでもらえるよう、雰囲気作りにも心がけ、キャンプ中のルールも最小限にしています。また中には、このサマーキャンプに会社の休暇を合わせて、家族サービスの一環で参加してくれ

たく違う環境で、色々な職種の人と一緒に活動することで気分も変えることができ、広く社会に対して視野を広げることができます。誰でも参加できるのがボランティアの良いところ。

主な活動は、2カ月に1回のペースで、ボランティアと障害者の仲間あわせて30～60名が集まって遊び（ハイキング、U.S.J.、キャンプ、映画館、ボウリング、パーティー、雪遊びなど）に行きます。どこに行くかは、仲間の意見を聞いて、企画会議にあたる定例会で詳細を決定します。会費は徴収せず、行事ごとに参加者全員で負担しています。

中でも、とくに力を入れている行事は「サマー・キャンプ」です。毎年、観光バスで琵琶湖にある松の浦キャンプセンターに約60名で訪れ、3日間一緒に生活します。このキャンプの準備が始まるのが1月頃で、食事のメニュー作りでは、薪で短時間で調理ができる、無駄のない材料配分で、喫茶店勤務の人たちが中心になつて献立を考えます。

キャンプ本番、裏方にあたる後方スタッフに役割が振り分けられ、勤務先から借りたトラックなどに食料や機材を積み込み、運搬し、食事作り、プログラムの進行、24時間交替で見守り……。初めて参加する勤労者や学生たちにも楽しんでもらえるよう、雰囲気作りにも心がけ、キャンプ中のルールも最小限にしています。また中には、このサマー・キャンプに会社の休暇を合わせて、家族サービスの一環で参加してくれ

社会人として一家を支える立場にあり、自分の生活を犠牲にしてまでボランティア活動とはいきません。50代に手が届きそうな年齢になり、定年後、何を楽しみにして、社会や地域とどういふつながりをもつて生きていくべきかを考えはじめました。そこでボ

れる人もいます。そんな自然な形でボランティアを受け入れられることも、長年続けてきて良かつたことの一つです。まだ「ボランティア」を特別視する人がいますが、普段の生活の中に加えて、食わず嫌いせず、誰もが空いている時間を利用して、障害を持つ仲間との交流に活用してみてはと思うのですが…。なかなかそれに結びつかせるのは難しいみたいですね。

現在のリーダーは、入会して10年目。きっかけは、友達に誘われ、仕事の休みを利用して活動に参加しました。活動を続ける秘訣は、ボランティア活動を重く受け止めるのではなく、しんどいことはメンバーや先輩方に相談し、自分自身お気に入りの場所にしています。これからも末永く気軽に続けていきたい：そんなことを思わせる「きんたろう」です。

### 講座情報

#### ●精神保健福祉ボランティア講座

ストレスの多い社会の中で、こころの病は誰もがなりえる病気といわれます。この講座を通して、私たちでできることをみんなで考えてみませんか。

日 時／7月23日(金) 午前10～12時(講演)、午後1～3時(ふれあいゲーム)  
7月27日(火) 午前11～12時(講演とビデオ観賞)、午後1～4時(講演とグループワーク)

対 象／守口市・門真市に在住、在学、在勤でボランティア活動に関心のある人  
場 所／さつきホールもりぐち(守口市市民会館) 守口市京阪本通2-13-1  
申し込み／守口市障害福祉課 TEL(06)6992-1221 内線452  
門真市障害福祉課 TEL(06)6902-6154

受付期間／6月7日(月)～18日(金) 参加費は無料

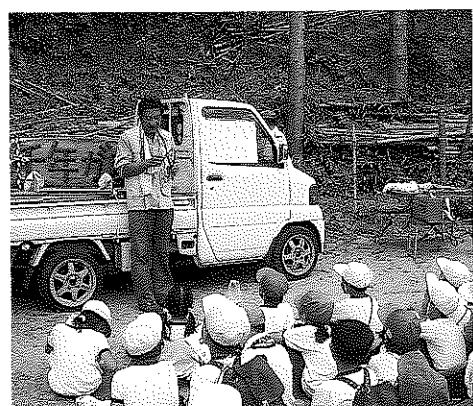
ある者同士の集まりですので、けつこう楽しいものです。しかし活動の中で、意見の違いや感情など意思疎通を欠くこともあります。ただ、そのこと以上に、多くの人たちと出会えることが楽しいので続けられるのだと思います。

メンバーの年齢も職業も様々で、ここに参加しなければ一生出会えなかつたはずです。ときにはお酒を飲みながら、仲間同士の家庭や仕事のことなどを話し、自らがボランティアを受けることもあります。地城との交流を深めるため、小学校の校外学習に参加させていただいて、「自然体験学習」のお手伝いをしております。児童たちと、森や林の中でする学習は楽しいものです。また、児童たちも学校周辺のゴミ拾い集めるボランティア活動を始めました。私はこれらを、休暇休日を利用しながらレジャー気分で、年間50程度、活動に参加しております。

今までには「暇のある人がするもの」と言っていたボランティアが、阪神

淡路大震災でのボランティアの活躍で、社会的に認められました。これらは高齢化に伴う介護、少子化、環境問題など組織活動への期待が高まるとともに、その果たす役割も大きくなっています。これから先も、多くの人の出会いを大切に、眞面目になり過ぎず、ゆとりをもつて楽しさを前提として気ままに参加していくことを思っています。

河南町ボランティア連絡会 新川久一



**河南町**

真面目になり過ぎず、  
ゆとりをもつてボランティア

ボランティア活動も日常生活の選択肢の一つと思い、時間的制約のなか、以前より関心のあった「環境ボランティア」を選択しました。一年間に数回ほどの活動を目標にして、いつでも止められる

と、軽い気持ちでの参加でした。始めてみると、ボランティアに興味

**泉州**

岸和田市障害者学級  
しゃばんだま

「さあ、みんなくでえーーー！」。今日は、毎月第2日曜に開かれる学級日(みんなで活動する日)です。岸和田

城で花見、温泉やみかん狩り、ボーリングや映画、料理や工作など、学級日の内容は盛りだくさんです。ボランティアをして、社会や地域とどういふつながりをもつて生きていくべきかを考えはじめました。そこでボ

イアのみんなは、障害を持つ人たちと友だちの目線で一緒に楽しめるよう、わかりやすい進行やこまやかな対応などで活動を支えます。

私たち「岸和田市障害者学級しゃぼんだま」は1981年に結成され、岸和田市ボランティア連絡会に所属するボランティアサークルです。ボランティアは高校生から30代の人たちで、職種も会社員、公務員、福祉職、看護職、そして学生などさまざまな分野の人があつまっており、市外からの参加者も少なくありません。

ボランティアは毎週土曜日の午後7時から9時までワイワイ楽しくミーティングをして、学級日の内容や学級運営について話し合い、また交流を深めています。



由で理想的なケアが実践できてしまふが喜んでくれる笑顔を見ると元気をもらえる」と言つて

## 大阪ボランティア情報ネットワークのホームページアドレスが変更されました。

<http://www.osakafusyakyo.or.jp/ovn/>

ボランティアしたい人、求める人の出会いをコーディネート  
（ボランティア情報満載のホームページ）

※登録に関するご相談、

お問い合わせは下記まで。

〒542-0065 大阪市中央区中寺1-1-54

大阪社会福祉指導センター内

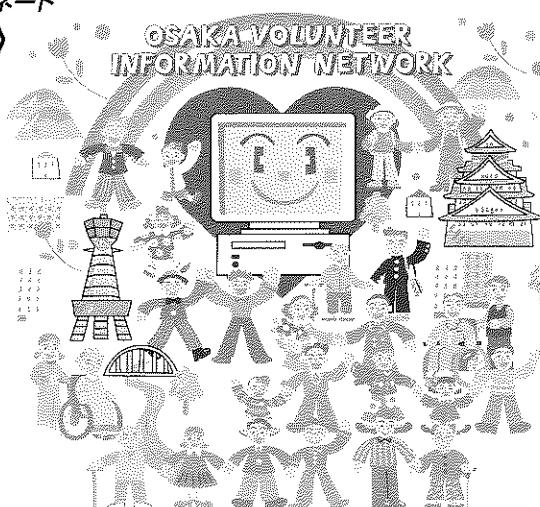
社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会

大阪府ボランティア・市民活動センター

TEL(06)6762-9631

FAX(06)6762-9679

本ホームページは大阪ボランティア情報ネットワーク運営協議会により運営されています。



います。こんな「しゃぼんだま」に、あなたもぜひ、一緒に参加してみませんか！

今後の活動スケジュールとしては、

5月16日（日）にハイキング、6月13日（日）に創作活動、7月11日（日）にボーリングを予定しています。

# 大阪府内のボランティアセンター一覧

市町村名	所 在 地	電 話	FAX
北 摂			
池田市	563-0041 池田市満寿美町6-23	072-753-8858	072-753-3444
茨木市	567-0888 茨木市駅前4-7-55 茨木市福祉文化会館内	072-627-0033	072-627-0434
島本町	618-0022 島本町桜井3-4-1 ふれあいセンター内	075-962-5417	075-962-6325
吹田市	564-8555 吹田市出口町19-2 吹田市立総合福祉会館内	06-6339-1210	06-6339-1202
摂津市	566-0022 摂津市三島1-1-1 摂津市役所西別館内	06-6318-1128	06-6383-9102
高槻市	569-0067 高槻市紺屋町3-1-303 グリーンプラザ3号館3階	072-683-2200	072-683-2209
豊中市	561-0881 豊中市中桜塚2-28-7 豊中市立福祉会館内	06-6848-1000	06-6841-2388
豊能町	563-0101 豊能町吉川187 町立保健福祉総合施設豊悠プラザ内	072-738-5370	072-738-0524
能勢町	563-0341 能勢町宿野114	072-734-0770	072-734-2623
箕面市	562-0015 箕面市稻1-14-5	072-722-2737	072-723-2106

## 河 北

交野市	576-0034 交野市天野が原町5-5-1 交野市立保健福祉総合センター内	072-894-3737	072-894-3738
門真市	571-0064 門真市御堂町14-1 門真市保健福祉センター内	06-6902-6453	06-6904-1456
四條畷市	575-0054 四條畷市中野新町11-31 四條畷市立福祉コミュニティセンター内	072-878-1210	072-878-6888
大東市	574-0037 大東市新町13-13 大東市立総合福祉センター内	072-874-1082	072-874-1828
寝屋川市	572-0036 寝屋川市池田西町28-22 寝屋川市立総合センター内	072-838-0400	072-838-0166
枚方市	573-1191 枚方市新町2-1-35 ラポールひらかた内	072-841-0181	072-841-0182
守口市	570-0083 守口市京阪本通2-13-1 さつきホールもりぐち内	06-6992-2715	06-6993-0134

## 河 南

大阪狭山市	589-0021 大阪狭山市今熊1-85 大阪狭山市福祉センター内	072-367-1761	072-366-7407
柏原市	582-0018 柏原市大県4-15-35	0729-72-6760	0729-72-6760
河南町	585-0014 河南町大字白木1387 やまなみホール内	0721-93-6222	0721-93-6550
河内長野市	586-0041 河内長野市大師町26-1	0721-65-0133	0721-65-0143
太子町	583-0991 太子町大字春日963-1 総合福祉センター内	0721-98-1311	0721-98-2111
千早赤阪村	585-0041 千早赤阪村大字水分195-1 保健センター内	0721-72-0081	0721-70-2037
富田林市	584-0037 富田林市宮甲田町9-9 富田林市総合福祉会館内	0721-25-8200	0721-25-8230
羽曳野市	583-6585 羽曳野市誉田4-1-1 羽曳野市立総合福祉センター内	0729-58-2315	0729-58-3853
東大阪市	577-0054 東大阪市高井田元町1-2-13 東大阪市立総合福祉センター内	06-6789-5550	06-6789-5611
藤井寺市	583-0035 藤井寺市北岡1-2-8 ふれあいセンター内	0729-38-8220	0729-38-8221
松原市	580-0015 松原市新堂1-589-6 松原市立総合福祉会館内	072-333-0294	072-336-0806
美原町	587-0002 美原町黒山782-10 美原総合福祉会館内	072-362-3939	072-362-1798
八尾市	581-0018 八尾市青山町4-4-18 サポートやお内	0729-25-1045	0729-25-1161

## 泉 州

泉大津市	595-0026 泉大津市東雲町9-15 泉大津市立総合福祉センター内	0725-23-1393	0725-23-1394
和泉市	594-0041 和泉市いぶき野5-1-7 アイ・あいロビー内	0725-57-0294	0725-57-3294
泉佐野市	598-0007 泉佐野市上町1-2-9 泉佐野市立福祉センター内	0724-64-2259	0724-62-5400
貝塚市	597-0083 貝塚市海塚319-1 貝塚市合同センター内	0724-39-0294	0724-39-0035
岸和田市	596-0076 岸和田市野田町1-5-5 岸和田市立福祉総合センター内	0724-30-3366	0724-30-3367
熊取町	590-0451 熊取町野田1-1-8 熊取ふれあいセンター内	0724-52-6001	0724-52-2658
堺市	590-0078 堺市南瓦町2-1 堺市総合福祉会館内	072-232-5420	072-221-7409
泉南市	590-0521 泉南市樽井1-8-47 泉南市総合福祉センター内	0724-83-0294	0724-83-0294
高石市	592-0011 高石市加茂1丁目20-12	072-261-3656	072-261-9375
田尻町	598-0091 田尻町嘉祥寺883-1	0724-66-5015	0724-66-8841
忠岡町	595-0812 忠岡町忠岡中2-16-25	0725-31-1666	0725-31-3555
阪南市	599-0292 阪南市尾崎町35-1 阪南市役所内	0724-71-5678	0724-71-7900
岬町	599-0303 岬町深日3238-24	0724-92-0633	0724-92-5701

# ボランティア・市民活動保険のごあんない

取扱保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

		ボランティア活動中の事故に備えて ボランティア保険	
補償内容	ボランティアがボランティア活動中に、①偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」、②第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」、③ボランティア活動中に死亡し、「傷害保険」の給付対象にならない場合の「死亡見舞金」の3つの制度がセットされています。		
補償金額	損害部分	B プラン	C プラン (天災担保)
	本人のケガ	死亡・後遺障害 2,445.6万円	死亡・後遺障害 1,102.4万円
	入院 (1日あたり)	8,700円	入院 (1日あたり) 5,900円
	通院 (1日あたり)	5,600円	通院 (1日あたり) 3,800円
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額		
	特定感染症	補償します	補償します
	天災	×	補償します
	対人	対人、対物共通 最高 4億円	対人、対物共通 最高 4億円
	対物		
	見死亡金	死本人の 死亡 30万円	死本人の 死亡 30万円
	掛金	ボランティア1名 年間 (中途加入でも同じ) 500円	700円
	加入できる人や対象となる活動	・無償であること (交通費、食事代など除く) ・自助活動ではないこと ・活動のための会議や、往復途上も含む	
	保険有効期間	毎年4月1日から翌年3月31日まで (中途加入の場合は受付日の翌日から)	

		各種イベント参加者の補償に ボランティア・市民活動行事保険	
補償内容	ボランティア団体や各種の市民団体が主催する行事の参加中に、①参加者が偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②主催者または参加者が第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」の2つの制度がセットされています。		
補償金額	損害部分	I型 (宿泊なし)	II型 (宿泊あり)
	本人のケガ	死亡 500万円	後遺障害 15~500万円
	入院 (1日あたり)	3,000円	入院 (1日あたり) 3,000円
	通院 (1日あたり)	2,000円	通院 (1日あたり) 2,000円
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額		
	特定感染症	補償します	補償します
	天災	×	補償します
	対人	1名あたり 1事故あたり	最高1億円 最高2億円
	対物		1事故あたり 最高500万円
	見死亡金	死本人の 死本人の 死本人の 死本人の	
掛金		I型	II型
	A区分	30円	1泊2日 248円 4泊5日 328円
	B区分	128円	2泊3日 256円 5泊6日 336円
	C区分	251円	3泊4日 264円 6泊7日 344円
	加入できる人や対象となる活動	ボランティア団体や市民団体が主催する行事 (スポーツ活動や自助活動も含む)	
	保険有効期間	行事期間中 (開催1週間前までに受付が必要)	

		各種NPO団体等の活動に 非営利・有償活動団体保険	
補償内容	ボランティア保険の対象外で、有償活動を行う団体が活動中に、①スタッフが偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②利用者などの身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」がセットされています。		
補償金額	損害部分	A プラン	B プラン
	本人のケガ	死亡 202万円	死亡 500万円
	後遺障害 6~202万円	後遺障害 15~500万円	
	入院 (1日あたり)	3,000円	
	通院 (1日あたり)	2,000円	
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額		
	特定感染症	補償します	補償します
	天災	×	補償します
	対人	1名あたり 1事故あたり	1億円 2億円
	対物		500万円
	見死亡金	死本人の 死本人の 死本人の 死本人の	
	掛金	A プラン 4,900円	B プラン 6,300円
	加入できる人や対象となる活動	営利目的ではないが利用者から実費を越える報酬を得ている活動、団体	
	保険有効期間	毎年4月1日から翌年4月1日まで (中途加入者は翌月15日~)	

		移送サービス活動に 移送中事故傷害保険	
補償内容	移送サービス事業の活動中に、車輌に搭乗中の加入者や利用者がケガをした場合、実施主体の責任の有無に関係なく補償します。		
補償金額	損害部分	I型 (車輌特定)	II型 (車輌不特定)
	本人のケガ	死亡 266.0万円	死亡 192.2万円
	後遺障害 7.9~266.1万円	後遺障害 5.7~192.4万円	
	入院 (1日あたり)	3,000円	
	通院 (1日あたり)	2,000円	
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額		
	特定感染症	補償します	補償します
	天災	×	補償します
	対人		
	対物		
	見死亡金	死本人の 死本人の 死本人の 死本人の	
掛金		I型	II型
		2,000円 (車定員1名あたり)	2,000円 (記名利用者1名あたり)
	加入できる人や対象となる活動	移送サービスを実施するサービス実施主体の運転者、同乗のスタッフがその利用者	
	保険有効期間	毎年4月1日から翌年4月1日まで (中途加入者は翌月15日~)	

市町村の社会福祉協議会へ保険料とともにお申し込みください



三井住友海上火災保険株式会社